
NEWS RELEASE (2021年11月19日) 取材依頼

小型浮魚類の産卵及び成育場としての北部薩南海域の重要性が明らかに！

日本の太平洋沿岸資源を支える重要な海域である可能性

報道機関 各位

平素より本学の報道に関しては大変お世話になっております。

このたび水産学部久米・小針・塩崎研究室では、熊本県立大学、東京大学大気海洋研究所との共同研究により北部薩南海域が多くの小型浮魚類にとって重要な産卵及び成育場として利用されており、日本の太平洋沿岸資源を支える可能性が極めて高いことを明らかにしましたのでお知らせします。つきましては、是非取材・報道くださいますようお願いいたします。

【概要】

アジ、サバ、イワシ類に代表される小型浮魚類は、我々の食卓を支える重要な水産資源である。2015年以降、練習船南星丸により継続実施してきた調査結果から、鹿児島湾口部から大隅海峡に広がる北部薩南海域にはこれら小型浮魚類の大規模な産卵及び成育場が形成されていることが明らかとなった。鹿児島湾の湾口部では冬季から春季にかけて黒潮の分岐流が表層から流入し、これに伴い流出する底層水の湧昇が春季ブルームを引き起こす。ブルームは仔稚魚に豊かな餌環境を提供し、産卵及び成育場の形成の主要因となっていると考えられた。小型浮魚類は仔稚魚の分散に黒潮を利用しており、成長、加入した個体の多くは黒潮下流の日本の太平洋沿岸域で漁獲される。北部薩南海域は我が国の太平洋沿岸域の水産資源を支え、資源を今後適正に管理していく上で鍵となる海域と言える。

なお、これらの研究成果は、国際誌(Frontiers in Marine Science, Estuarine, Coastal and Shelf Science, Marine Biology)に掲載されました。

取材を希望される方は、2021年11月25日(木)午後(13:00~15:30)、鹿児島大学水産学部中会議室にて、説明(随時対応)を行いますので事前に下記へ[社名・取材人数・連絡先電話番号]をご連絡ください。参加の際は、新型コロナウイルス感染症予防対策の上ご参加いただきますようお願いいたします。

【問い合わせ先】

久米 元

鹿児島大学水産学部水圏科学分野

Mail: kume@fish.kagoshima-u.ac.jp

TEL: 090-6890-2723